

災害時の 水・食糧備蓄プロジェクト

甚大な被害を及ぼすといわれる「南海トラフ巨大地震」にそなえて、水・食糧の備蓄プロジェクトを実施しています。

大災害が発生したときに、自治体やボランティアがうまく機能するには3日かかると言われています。また、「東日本大震災」で園舎を津波で流されたものの全園児と職員が無事だった仙台市の保育園では、保護者の方々は災害で大変な状態のなか苦労して避難先に子どもを迎えに来られましたが、最後の園児を迎えるに来られたのが4日目の深夜だったそうです。

南海トラフ巨大地震が発生すれば、大阪では震度6強と予想されており「帰宅困難者（帰宅難民）」が約150万人になると言われています。このような事態になったとき、子ども達の安心・安全を第一に考えなければなりません。

子ども園には、乳児や食物アレルギー児がいるために通常の備蓄用食料（乾パン等）では対応が困難です。乳児のためには粉ミルクおよび離乳食。食物アレルギー児のための食糧備蓄が必要になります。

このようなことから「水・食糧備蓄プロジェクト」を推進しています。

プロジェクト内容

- 備蓄開始 平成26年（2014年）4月から
- 備蓄内容 保存水（災害対策・5年間備蓄用） 2Lペットボトル 120本
非常食（白飯：アルファ米 5年間備蓄用） 900食分 75食分入り12ケース
(缶入りパン：賞味期限3年) 900食分 200g入り缶 300缶
- その他の備蓄 離乳食児用のアルファ米おかゆ、乳児の粉ミルク、アレルギー児用アルファ米ご飯、LPGボンベ、LPG用コンロ

- 上記の備蓄量は、全園児と職員の4日分の量です。（1,800食分）
- 備蓄品については、保存期間5年の水とアルファ米は4年目で、賞味期限3年の缶入りパンは2年目で買い替えします。
- 備蓄品の水・アルファ米は、買い替え時に給食材料の一部として使用します。
- 災害の被害の状態や発生時間によっては、被災地域の支援物資として提供します。

備蓄用缶入りパンで

世界の飢餓対策支援活動に参加します！

◆備蓄用の缶入りパンは2年後の買い替え時にNGO 日本国際飢餓対策機構等を通じて、食糧不足に苦しんでいる国々の子ども達を救う支援物資として届けます。

保護者の皆さんも参加します

◆備蓄用300缶のうち約140缶を保護者の皆さんと職員とで負担し、飢餓に苦しむ世界の子ども達にプレゼントします。（残り160缶は子ども園が参加）